



ミニバスケットの バッシュリユースで 子どもたちのQOLを向上しよう

サステナブルレポート No.8

2025年9月19日

作成者:S・A



ミニバスバッシュの買い替えに伴う経済的負担

■ 買い替えは約年6回、安くても30,000円の出費

- ミニバスケット競技において、バスケットシューズ=バッシュの買い替えは早くても2か月、長くても9カ月で交換時期が来る。バッシュの値段は5,000～10,000円前後なので、家庭に経済的負担がかなりかかる。
- 子どもの成長による買い替えや摩耗などによるシューズ機能の低下による買い替えが主な要因である。
- 経済的負担により競技継続を断念する家庭も出てくる。合わないバッシュを履くことで子どもの成長を阻害したり、またソールが摩耗したバッシュを履き続けることで怪我の可能性も上昇する。



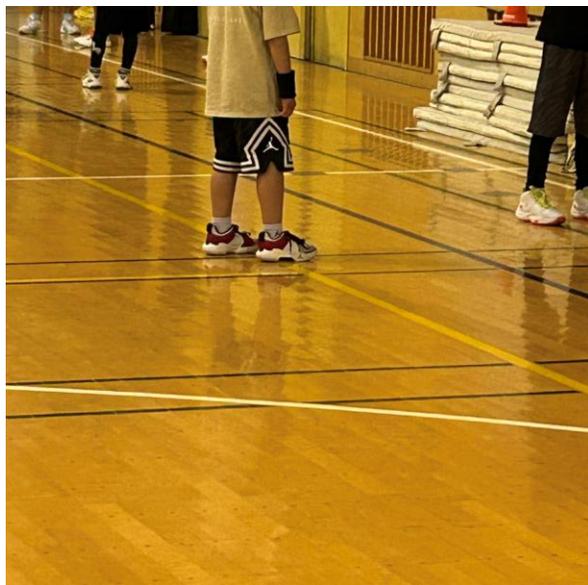
出典:筆者撮影

バッシュの買い替え負担を少しでも減らす策とは

チーム内でのバッシュリユースの取り組み

■ リユースからつながる競技人口の増加

- 現状では所属チーム内だけでバッシュのリユースは行われ、買い替えの負担を和らげる取組がなされている。
- チーム内でリユースすることで各家庭の経済的負担が減るうえに、新規部員の獲得にもつながっている。
- チーム内だけでなく各地区の連盟が主体となり、リユースバッシュの確保、提供していくことが新規に始める人の獲得につながるが、連盟の金銭的及び人的負担が大きい。
- 金銭面の問題で子どもにミニバスをやらせられないことで連盟加入の絶対数が下がり、企業側もメリットを考えづらくなり参入が難しくなっている。



出典: 筆者撮影

企業とバスケットチーム、winwinの関係をつくるために

連盟の充実を図るため企業が参入して管理体制の構築を構築

■ 企業が収集したデータを子どものQOL向上に活かす

- 企業がスポンサーとなり連盟と協力してバッシュを安価提供したり、リユースバッシュの収集拠点を作ることで子どもたちが競技に集中できるうえ、新規に始める人のハードルも下がる。企業はCSR活動に取り組み社会的責任を果たすことができる。
- 企業はシューズを提供する代わりに、子どもたちの成長度合いや足の傾向のデータを取り、商品開発に活かせる。
- そのデータはスポーツシューズだけでなく普通のキッズシューズ開発にも活かせる、日本の子どもたち全体のQOL 充実につながる。



出典:筆者撮影

全ての子どもたちが平等にバスケットをできる世界へ

■ 参照・引用資料

- 【ミニバス】子どもに合うバッシュのシンプルな決め方 | さんぺいブログ <https://sannpei.net/890/> 2024年11月28日閲覧
- 横浜市ミニバスケットボール連盟 - 一般社団法人 神奈川県バスケットボール協会 U 1 2 部会 横浜支部 <https://www.yokohamamini.com/> 2024年12月2日閲覧

本レポートに関するお問い合わせはこちらへ

株式会社グーン

〒231-0023

神奈川県横浜市中区山下町2番地 10F

TEL: 045-228-8960

担当: ブルーエコノミー研究所 大木

<http://www.guun.co.jp/>



- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。